2021 歴史検証シンポジウム

北送とは何か～ なぜ「帰国事業」を北送と呼ぶのか

日本社会がこぞって賛美した1959年12月から始まった在日同胞のいわゆる「帰国事業」「帰還事業」は、金日成の統一戦略に基づく在日同胞の「誘引」「北送事業」だった。

この北送事業は、北韓が<地上の楽園>だという虚偽宣伝によってなされた国家的詐欺事業であった。

93,340名もの在日同胞と日本人家族が北韓に連れて行かれ、北送から60年を過ぎた今も北韓に「監禁」 同然にされており、連れて行かれた彼ら彼女らとその子孫たちの悲劇は続いている。

この北送の首謀者が北韓の金日成であり、その実行部隊は彼の指揮下で動いた朝総連であったことは、すでに明白となっている。 これに人道的支援の美名のもとで協力した日本政府のいわゆる「追放政策」の一端も明らかにされている。

この歴史検証シンポジウムでは、2019年11月に開催した北送60年歴史的検証～特別シンポジウムを総括し、なぜ 「帰国事業」 ではなく北送事業だったのかを論理的に再構築し、それを実行した目的とその責任主体を改めて韓日両市民に知らしめ、抑圧されている北送同胞と日本人家族たちの待遇改善と北韓社会の民主化を求めてゆく。

2021.12.14 民団ホームページ上で公開！

URL:mindan.org 右の QRコードからもアクセス

テーマ：北送とは何か（共通課題）

◆何故「帰国」ではなく「北送」と呼ぶのか?……朴 斗 鎮（コリア国際研究所所長）
①1958年に金日成が統一戦略によって始めた ②当時の在日僑胞は北の国民ではなかった
③朝鮮総連が「地上の楽園」などとの詐欺宣伝で北送した

◆いわゆる「帰国事業」研究でのいくつかの誤り……菊池嘉晃（早稲田大学地域・地域間研究機構日米研究所招聘研究員）
①具体的資料が示す日本政府主犯説の誤り ②いわゆる「帰国事業」は日朝国交正常化を狙ったものではない

◆北韓・朝総連の宣伝工作……高 英 起（デイリーNKジャパン編集長）
①日本マスコミ、朝野こぞっての北韓賛美キャンペーン ②明らかにされなければならないメディアの責任

◆「北送」反対運動……呉 英 義（民団新聞社主幹）
①民団「北送反対闘争委員会」北韓賛美一色の中で孤軍奮闘 ②韓国政府の北送反対と在日同胞への対応
③「脱北者支援民団センター」の設立

◆北送同胞救済運動の深化……山田文明（北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会名誉代表）
①北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会の闘い ②闘いは深まっている－北朝鮮帰国事業裁判

◆北朝鮮難民救援基金の救出活動と実績……加藤 博（北朝鮮難民救援基金理事長）
①人道主義貫く救出活動と実績 ②脱北「難民」の現状について

お問い合わせは**03-3454-4617**
民団中央本部組織局まで

主催：在日本大韓民国民団中央本部
後援：在外同胞財団

パネリストプロフィール（順不同）

朴 斗 鎮

コリア国際研究所所長

1941年、大阪市生野区生まれ。大阪府立生野高校を卒業、66年朝鮮大学校政治経済学部卒業後、朝鮮問題研究所所員として在籍。68年から75年まで朝鮮大学校政治経済学部教員を務めた後、(株)ソフトバンクで孫正義氏と遊技業経営企画に携わる。その後、経営コンサルタントとなり現在はコリア国際研究所所長として朝鮮半島問題に関して新聞、雑誌への寄稿やテレビ、ラジオのコメンテーターとしても活躍中。【著書】「北朝鮮その世襲的個人崇拝思想-キム☒イルソン主体思想の歴史と真実」「朝鮮総連～その虚像と実像」(中央公論新社)、「揺れる北朝鮮」(花伝社)、「金正恩～恐怖と不条理の統治構造」など。

山田文明

北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会名誉代表

1948年、滋賀県生まれ。72年龍谷大学経済学部卒業。77年大阪経済大学大学院経済学研究科博士課程単位取得。専門は経営情報学。現在は有限会社ブリティッシュガーデン取締役、医療法人山田医院理事。北送で北に渡った在日朝鮮人や、日本人配偶者、脱北者などの生命と人権を守り、救出する活動や脱北者の定着支援に尽力。03年には中国公安当局に脱北者や韓国人支援者らとともに拘束、国外退去処分となり日本へ無事帰国。2008年に朝総連、2018年から北韓に損害賠償を求める裁判を支援してきた。【著書】「金日成が発動した壮大なる誘拐」「朝鮮総連による帰国事業の実態」

加藤 博

北朝鮮難民救援基金理事長

ジャーナリストとして活動していた90年代にシベリアで強制的に働かされていた北韓労働者の窮状を知り、純粋に人道的な見地から北韓難民の人権を擁護支援することを目的に1998年設立、

2003年にはNPO法人化。特定の政治イデオロギーや宗教から独立した個人の自由意思による寄付によって運営されている。2002年に中国当局に逮捕拘束されるなど、これまで危険が伴う救援活動によって定住の道を開いた人数は、韓国に約200人、日本には定住者全体の半分の約100人、その他の国にも定住の道を開いた。2008年度に東京弁護士会人権賞を受賞、2009年度にはアメリカ国務省自由擁護者賞にノミネートされるなどの評価を受けた。

高 英 起

デイリーNKジャパン編集長

1966年、大阪生まれの在日２世。大阪朝鮮高級学校から関西大学へ進み、大学在学中から北韓問題に関わる。98～99年、中朝国境の町☒吉林省の延辺大学に留学。当時ほとんど存在が知られていなかった北韓難民「脱北者」の現状や北韓の内部情報を発信する。帰国後は、テレビ☒ディレクターとして活動しながら北韓取材を進めるが、中朝国境での活動が北韓当局の逆鱗に触れ、２度の指名手配を受ける。10年から北韓情報専門サイトデイリーＮＫの東京支局長に就任。北韓問題を中心にフリージャーナリストとしてテレビやラジオのコメンテーターとして活躍中。【著書】「コチェビよ、脱北の河を渡れ―中朝国境滞在記―」(新潮社)、「脱北者が明かす北朝鮮」「金正恩 核を持つお坊ちゃまくん、その素顔」(宝島社)など。

菊池嘉晃

早稲田大学地域・地域間研究機構日米研究所招聘研究員

1965年、東京都生まれ。博士（国際文化）[法政大学大学院 2018年]。早稲田大学第一文学部(英文学専修)卒業。全国紙記者として韓国・北朝鮮関連の取材などに携わる。1994年～1995年に韓国・成均館大学校大学院史学科修士課程に留学。2001年、「在日韓人北送に関する研究」(韓国語論文)で文学修士。現代韓国朝鮮学会、アジア政経学会、朝鮮史研究会などに所属。【著書】『北朝鮮帰国事業―「壮大な拉致」か「追放」か―』(中公新書)

『北朝鮮帰国事業の研究－冷戦下の「移民的帰還」と日朝・日韓関係―』(明石書店)。【共著】には、『韓流ハンドブック』(新書館)、『北朝鮮帰国者問題の歴史と課題』(新幹社）。【主な論文】「北朝鮮帰還事業『前史』の再検討－在日コリアンの帰国運動と北朝鮮の戦略を中心に－」(『代韓国朝鮮研究第8号)、「北朝鮮帰国者の適応問題と現地社会との葛藤」（現代韓国朝鮮研究第17号）

呉 英 義

民団新聞社主幹

1951年、大分県生まれ。九州大学卒業後、韓国の在外国民研究所修了。大分韓国青年商工会会長(1990年)、在日韓国商工人連合会副会長(1992年)、民団大分県地方本部副団長(1993年)、民主平和統一諮問会議西部地協会長(第18～19期)、民団中央本部副団長(2012年～)